

# VEHICLES

車両紹介

現場活動には欠かせない消防車両も現場によって出動する車両が異なり、さまざまな種類があります。

消防車両にはAVM（車両動態管理システム）を搭載し、現場での活動状況などを三重北消防指令センターにワンタッチで報告できるようになっています。



## 救急車

3台配備されており、心電図モニターやAEDなどの医療機器を搭載しています。



## ポンプ車

搭載したポンプで川などから消火用の水を吸水し、火災現場へ水を送水します。

積載水量 600ℓ



## タンク車

ポンプ車よりも一回り大きく、積載水量も多いため、火災の最前線で活躍します。

積載水量 1,500ℓ



## 救助工作車

車両事故の現場などに出勤し、100点を超える資機材の数々で救助活動を主にを行います。



## 水槽車

水運搬車両として高速道路などの消火用の水が乏しい現場で送水活動を行います。

積載水量 5,000ℓ



## はしご車

はしごを30m伸ばして放水することができ、4階以上の高所での救助や火災に出動します。

災害にも普段と変わらない動きが出来るよう訓練を重ねています。救急出動時には血液の付着などのおそれがあるため、感染防止着を着用し活動します。特に現在は、感染症対策としてゴーグルと感染防止着を出動時に着用しており、病原菌による不意の感染などを防ぐよう配慮しています。救助出動時や山岳救助時には防護対策が施された救助服を着用し、不意の裂傷などから署員の身を守っています。いずれの装備も季節を問わず、どのような出動の際でも装着しており、危険な現場での署員の活動を心強く支えています。

ヘルメット  
ゴーグル  
ヘッドライト

## 救助服

主に救助出動時に着用し、裂傷などから署員の身体を守るため、裂けにくく破れにくい素材で形成されています。

## フルボディハーネス

高所からの降下時などにハーネスに付属する金具とカラビナやロープを結節して署員の体を支えます。



Rescue

火災発生時は防火衣を着装して出動します。防火衣は、消防庁が定める「消防隊員個人防火設備に係るガイドライン」の耐炎・耐熱性能、機械的強度性能、防水性や耐化学薬品性などの基準を満たしたものを配備しています。防火衣の重量はヘルメットや安全帯を含めると約10kgにもなり、さらに空気呼吸器を背負うと合計20kgを超える装備となります。緊急性を要する現場で動きやすいとは言えない格好ではありますが、署員の身体や生命を守るために欠かすことができない重装備であり、訓練時でも消火活動を行う署員は、防火衣の着装を行い、実際の火

## ゴーグル

## 感染防止着

マスクの着用とともに現在は感染症対策のため、血液や体液の付着を防ぐ感染防止着を着用しています。

## AED

心肺の状態を計測できる心電図モニター付きのAED（自動体外式除細動器）が救急車に常備されています。



First aid

# 消

署員の身体と生命を守る装備  
消防署員の活動は、火災、救急、救助と3つに大別することができ、特に火災が発生している現場などでは、消火活動や救助活動に際して署員の身体や生命自体も危ぶまれる状況であることが多々あります。そのような状況で署員の身体や生命を守るため効果を発揮するのが現場に臨むために着装する装備です。

ヘルメット  
ヘッドライト  
防火衣

耐炎・耐熱仕様の特種な生地で作られています。安全帯などを装備すると重量は約10kgほどになります。

## 無線機

## 面体

呼吸器とセットで使用します。顔を保護するために顔全体を覆うような形状になっています。

## 安全帯



Firefighting

PROTECT my town まちを守る

# ITEMS

資機材紹介

出動時に現場に必要な装備は事故や火災の状況、要救助者の状態などによってさまざまです。数多くの装備の中から、その一部をご紹介します。

## 油圧カッター

エンジンカッターでは切断できない鉄などを油圧の力で切断する資機材。車両のドアの固いヒンジ部分などを切断することができます。



## エンジンカッター

シャッターや車両のボディなど比較的薄い鋼鉄を切断する際に使用します。



## 自動心臓マッサージ機

胸骨圧迫（心臓マッサージ）を自動で行うことができ、圧迫の強さ、周期などを調節して、絶え間なく胸骨圧迫を行えます。



## 空気呼吸器

火災現場などに突入する際、背負って携行し、ボンベ内には空気が入っています。装着して約5～10分間の活動を行います。



▲生死を左右する現場で使用する資機材は毎日、入念にチェックしています。